

1. 活動報告（事務局 記）

—7月23日（水） 山口県環境パートナーシップ広域会議の皆様がビオトープに見学に来られました。今井会長・原田副会長が対応し、案内は原谷会員と前田会員により創設から現在の状況など説明致しました。広域会議の吉富会長・引受の宇部地域環境パートナーシップ会議浮田事務局長・世話役の山口県環境生活課杉山さまを含め県内の地域環境パートナーシップ会議17名の方々でした。

—8月2日（土） 2つの活動があり当つくる会も参加いたしました。

① 厚東中学校生徒のボランティア活動

教頭先生他女子生徒6名・男子生徒5名でたんぼ日陰のねむの木伐採とイナゴの捕獲をしていただきました。当会より原田副会長・吉富会員・事務局参加

② 「フジときららネットこどもえこくらぶ」の活動

原谷・前田両会員案内のもとに「えこくらぶ」22名（子供7名。スタッフ13名）で須賀河内川下流域の水遊びや魚捕獲イナゴ退治で自然環境学習と遊びに満喫されました。

—8月3日（日） ビオトープや須賀河内川周辺の水棲生物の調査を活動として行いました。雨も少しは降りましたが楽しい活動日になりました。調査は2手に分かれ

①須賀河内川調査と沢登は関根リーダのもとに会員計5名・観察隊の親2名と子供3名・山大学生応援2名・合計12名で、たくさんの魚（主にカワムツ他オヤニラミ・ムギツク・ドンコ）や 昆虫を一時捕獲し観察することが出来ました。

②またビオトープ周辺（須賀河内川下流。ため池。草原の川を会員8名・観察隊親1名子ども2名・山大学生応援2名計13名で最近あまり見かけないモクズカニやドジョウ・ギンフナも捕獲しました。

会員14名・観察隊親3名子ども隊員3名・ジュニア2名・応援学生4名総勢26名でした。

—8月4日（月）ときわ湖水ホールにて、シンポジウム「地域で学校ビオトープをつくろう！」が開催されました。パネルディスカッションでは、コーディネーターを関根会員が、事例発表を原谷会員が担当されました。

—8月21日（木）宇部環境コミュニティ主催出張サロン「里山ビオトープ二俣瀬の見学と自然観察」を厚東校区学童保育を対象とした観察会のご案内をいたしました。

厚東小学校学童保育児童20名 先生2名 環境コミュニティスタッフ2名 宇部市環境政策課 1名 合計25名でした。

当会から 歓迎挨拶に今井会長と案内役に原谷・前田・原田4名参加しました。

ビオトープでの水生昆虫・魚などを採取しそれらの名前の勉強をし、清瀬峡から昭和山入口まで昆虫採取をして、初めに仕掛けた網罟を上げてみました。途中チェックした時は何

匹かかっていた魚も時間が経ってみんな逃げてしまいました。

—8月23日（土） 雨上がりの大変暑い中9名の参加で水路上下・市道の草刈りを行いました。取水部の流れ込んだ砂の除去や水車入口以後の溝浚えも実施しました。暑い中咲いているサギ草に癒され草刈作業が楽しく出来ました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎見学者

—山口県自然観察指導員協議会の行事

① 役員会：9月7日9：00より 二俣瀬ふれあいセンターにて

② 定時総会：11月9日9：00～12：00

場所は二俣瀬ふれあいセンターにて、午後ビオトープの見学をされます。

※30名程度参加

◎行 事

—9月7日（日）維持活動（草刈り・エコアップ）

—9月20日（土）親子自然観察隊（秋の昆虫）

3. 来訪者の声

今月はありません

4. 会員の声【学校ビオトープのシンポジウムに参加して】（原田 満洲夫 記）

8月4日 「地域で学校ビオトープをつくろう！」ということで宇部市環境政策課主催のシンポジウムがありました。

※宇部市では、学校と地域等が連携した「学校ビオトープづくり」の取組みに向けて、学校関係者、地域住民、事業者の方々を対象に、意識の醸成を図ることを目的としたシンポジウムでした。

学校ビオトープとは、「学校または周辺において幼稚園児から中学生までの子供たちが、授業や放課後学習などで利用するビオトープ」と定義し、体験的な環境学習の場、多様な生物が生息する場、地域との交流の場として有効であることから、コミュニティスクール等の活動の場のひとつとして、その活用が期待できます。（※宇部市のHPより）

久保田宇部市長の挨拶があり、基調講演として「日本生態系協会」の関事務局長氏からビオトープについて講話があり、パネルディスカッションには、コーディネーターに関根会員（山口大学工学部大学院教授）とパネラーとして原谷会員が当「里山ビオトープ二俣瀬」について発表されました。

東田布施小学校PTCA 西本会長による学校ビオトープ製作体験談発表後、原谷会員からは、「里山ビオトープ二俣瀬」のビオトープ創設時の経緯や意義と、つくる会現在の活動を詳しく説明されました。

しかし、質疑応答において、学校に（学校管理下に）ビオトープをつくることは、なかなかむつかしい問題があるのではないか？の意見や、兎に角作ってみて難しい問題を解決していけば？などの意見もでした。いずれにせよ学校と地域の密接な関係（環境に対しての勉強・作業や管理）が私の個人的な考えでは必要であろうと思います。

幸い二俣瀬小学校には近くに我々のビオトープがありこれを多いに環境学習に利用してもらえばよいのではないのでしょうか。

5. 親子自然観察隊（川の水棲動物：須賀河内川遡行）（関根 雅彦 記）

朝から町では雨模様。前日のお昼ごろにも強い雨が降ったので、川の増水が心配でしたが、ビオトープに来て見ると雨も小止みとなり、薄くにごっているだけで流量も問題なし。天気や日程変更のためこどもの参加が3人と少なく、サポートの大人がその3倍。でもみんな元気に出発です。東屋から川に降りてすぐにオヤニラミ GET! 人数が少ないため、こども達とも十分話しながら上っていけるのがむしろ楽しい。“とと滝”までの瀬ではヨシノボリ、ドンコなど、とろ場ではカワムツ、ヌマエビ、ヤゴなどを捕りました。モクズガニも何回か見かけました。“とと滝”の滝壺では大型のカワムツやドンコなどを捕獲。こども達も投網体験したあと、やや流れが強くて例年より難しくなっている“とと滝”“かか滝”を、大人もこどもも真剣な顔で登ります。小さな滝が続く清瀬峡は、楽しみながらどんどん進みます。この区間は例年あまり魚が捕れません。全体に浅く、また岩盤が多くて魚が隠れる場所がないのが理由だと思いますが、いくつかの滝つぼはもう少し真剣に調べてもよかったかも知れません。ともあれ、無事全員ゴール。雨脚が強まる中、ビオトープに戻ります。どうせぶぬれなので、そのままビオトープ周辺にしかけたわなを回収。川ではモクズガニ、ヌマエビ、ドジョウ、イトモロコ、オヤニラミ、ムギツク、カワムツ、池ではギブナの大漁でした。単調な砂底のとろ場ではカワムツしか捕れず、環境の多様さが大切なことをこども達もわかってくれたと思います。今年は、例年多くとれるカワムツの他、オヤニラミやモクズガニがたくさん捕れたのが印象に残りました。一方、ムギツクやヨシノボリ、エビ類が少なかった。また、たくさんいるはずのカマツカやシマドジョウがまったく捕れず、捕り方にも工夫が必要だと思いました。来年以降の課題ですね。



最初の堰を登ります



とと滝を登ります



かか滝を登ります



川登りを終わって全員集合

親子自然観察隊（8月3日 川の水棲動物）に参加した親子の感想

★大井さんのお母さん

この度の沢登りは、台風の中を実施していただき、母子共に貴重な体験をさせていただき、すごく感謝です♪毎年試しているなかで、やはりこの度は天候事情により、川の状態や生き物のあり方、体感の違いなど…全く新しい事ばかりで、とても新鮮でした!ありがとうございました(^-^)/



★藤井美早さん

深いところはひやくて気持ちよかった。魚がとれておもしろかった。

★藤井哲平さん

魚がつれておもしろかった。どろんこがいややった。

★藤井さんのお母さん

川登りのほうに参加できなくて残念でしたが、あのどろどろの中を生き物を探すのが、とても楽しかったです。ふだんなかなか体験できないことなので、よかったです。

★野田怜くん

網を投げたけど難しかった。二匹魚が入ってくれてよかった。ヒラタクワガタのデカイのを見つけてうれしかった。

★野田くんのお母さん

雨で8月とは思えない位とても涼しい日でした（体が雨にあたり川に入ったから?!）川に入ると深い所もあり子供の胸位まで水位があり冷たい所もありました。滑る岩もあり、ロープをつなげてもらい岩を登ったりワクワクしながら用心深く進んで行きました。川から上がると安堵でした。日頃体験出来ないですし、夏休みのよい思い出になりました。

6. ビオトープ関連：「山口県のトンボたち」 (管 哲郎 記)

(20) ハネビロトンボ *Tramea Virginia* (Rambur)

トンボ科 <ハネビロトンボ属> *Tramea* Hagen

国内では九州、四国で定着し発生しているようですが、もともと南方系のトンボで、山口県を含む本州や北海道で見られるトンボは南方よりの飛来種とされています。

林に囲まれた静かな植生豊かなため池を好むようで、ウスバキトンボに混じって梅雨明けの7月ごろより9月ごろまで、池や水田、小高い山の頂上付近などに飛翔する姿が見られます。時には池近くの樹の枝先に休む姿も見られます。

筆者は宇部市内のため池で発見しており♀の産卵まで目撃しています。生まれた幼虫は秋までに大きく成長するようですが、冬の寒さでヤゴは殆ど死んでしまい年を越せません。

ウスバキトンボによく似た姿をしています、しかしオスは翅の付け根や腹が赤褐色、黒色をしており、明らかに違い、美しく派手な色をしているので容易に見分けられます。メスは赤くなく地味な黄色っぽい色をしています。

いつでもどこにでもいるトンボではありませんので、みなさんの目にはなかなか止まらなと思います。植生豊かなため池の近くや上空をゆっくりと飛翔しますので、気をつけて観察してください、発見できるかもしれません。



飛翔する♂



休止する♀



7. 会よりの連絡事項 (事務局より)

(1) 稲作体験情報

イ) 無効分結を抑制する為8月初めより注水を止めていますが、度重なる降雨でその役目を果たすことが出来ないでいます。高収穫高品質は日照時間が影響しますので今年は残念ですが期待薄です。

ロ) 無農薬をモットとしておりましたが8/2厚東中学校・フジときらら子どもエコクラブの皆様方のイナゴ捕獲作戦後も1週間毎夕捕獲継続していましたが、残念ながら、さらに増えましたので8/11農薬を(減農薬として)散布しました。現在はほとんどイナゴを見る事がなくなりました。

8. 編集後記

前回の編集後記で、忙しくて参加出来ないと言い訳して約半年が経ちました…

4月辺りから会の活動に復帰して、今夏真っ盛りです、また忙しくなる季節が近付いてます… 会の活動に参加して10年以上経ちますが、まるで自然への保護活動の知識は出来ず、参加する時は、何とか草刈だけでもお役にできればと思っています。

今年もテレビで異常気象だと騒いでいます、各地で局地的な大雨被害も出て大変だと思っています。ただ、その大雨で東北の為にも、放射能の除染につながってくれないかな…とも思っています。

今年の夏は、ここ数年に比べれば過ごしやすい方だと思っていますが、やはり暑くビールの消費量は変わりません。暑いと温暖化について心配になります、しかし寒いと少しぐらい温暖化になってもと思います…

ここ数日間、天候が悪く日照時間が少ないので、稲作が心配です。

(若林 正治 記)